

【平成16年度専修学校先進的教育研究開発事業】

事業名	ファッションマーチャンダイジング授業開発・実践プロジェクト		
学校法人名	国際総合学園		
学校名	国際トータルファッション専門学校		
代表者	理事長 渡辺敏彦	担当者・連絡先	学校長 関川政春 TEL 025 (226) 6601

<事業の概要>

「企画、デザイン、生産、販売、プロモーションまでの一気通貫システムに対応できる実践的なファッションマーチャンダイジングカリキュラム」および教材CD-ROMを研究開発するとともに、その検証を目的とした、トライアル授業を年度内に実施し、その成果をファッションショー、展示会形式で、広く一般に発表公開することを主題としました。

具体的には、ファッション衣料品の1次製品である生地テキスタイルを産学協力で開発し、第8回繊維総合見本市「JAPAN CREATION」の見附ニット工業協同組合ブースへ出展するとともに、2次製品としての洋服を企画、生産し、学生立上げのオリジナルブランドで括って、ラフォーレ原宿新潟店舗で実売するなど、従来の服飾学校教育に欠けていたファッション流通を視野に入れた実践的な授業を展開する事としました。本委託事業の成果発表として「学生立上げオリジナルブランドによるファッションショーおよび模擬受注会」を実施し、業界関係者で組織された審査委員により、個々の学生企画を評価し、学生へ結果をフィードバックすることによって、現時点でのマイナス面を再構築するチャンスを提供しました。今後就職して携わる企画活動に寄与できる内容とし、それらを側面からバックアップするIT補助教材として、「3D Simulation for Fashion Design」をCD-ROMで作成することを目指し完成することができました。

〔1〕プロジェクトの委員構成

学校法人 国際総合学園がこの事業運営の中核となり、事務局を国際トータルファッション専門学校に置き、新潟デザイン専門学校、国際ビューティ・ファッション専門学校2校協力体制のもと、専修学校教師、ファッションビジネスの有識者、アパレルメーカーから小売り企業まで一気通貫の産・学委員13名により委員会を構成しました。

また、ファッション産業教育の内容充実を図るにあたって、如何に業界実務経験の有る指導者を確保するかが教育結果に大きく関係してくるので、本プロジェクトのファッションマーチャンダイジング授業実施に当たり、業界をリタイアした熟練技術者やファッションビジネス有識者およびプロを補助者として確保、講師として活用する事を工夫しました。

<平成 16 年度 委員構成>

委員構成	委員名	所 属 職 名
産業側・委員 (6名)	神山勝雄	神山デザイン事務所・代表
	小海茂美	新潟県工業技術総合研究所素材応用技術支援センター
	半田孝尚	10KHz・代表取締役社長
	大田徳之	ラフォーレ原宿新潟・館長
	後藤大介	(株)テクノア・VR システム事業部課長
	木伏 章	兼松繊維(株)・社長補佐
学校側・委員 (7名)	関川政春	国際トータルファッション専門学校・学校長
	加藤一人	新潟デザイン専門学校・副校長
	長沢伸貴	国際ビューティ・モード専門学校・教務主任
	鋤柄佐千子	新潟大学教育人間科学部・教授
	岩野周市	国際トータルファッション専門学校・講師
	高地真理子	国際トータルファッション専門学校・教務部長
	松田 大	国際トータルファッション専門学校・教務

〔2〕 ファッションマーチャンダイジングカリキュラムを開発する背景
ファッション企業の要求する創造的で実践力のある人材を専門学校が養成するには、学生に対して次の4つの能力を開発することが特に重要です。

- 、 独創的な発想ができる能力
- 、 自ら主体的に考え問題を発見し解決できる能力
- 、 自己責任で行動できる能力
- 、 企業活動において即効的で有用な実務能力

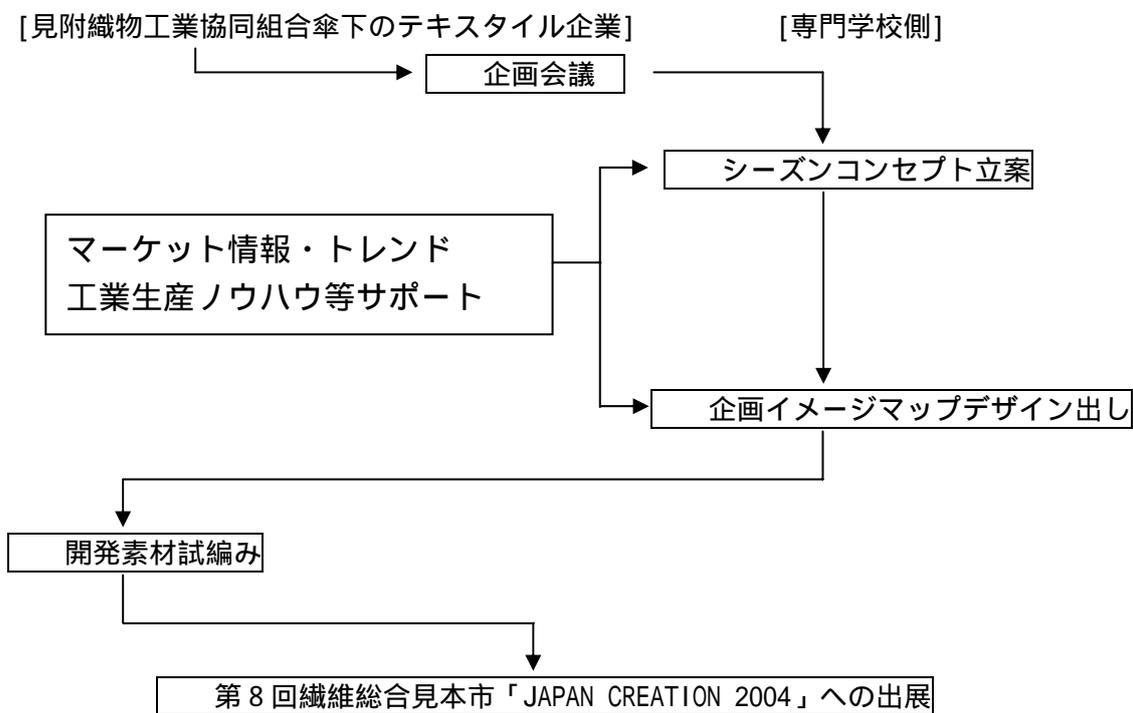
これらの能力を養成する具体的方法論として「インターンシップ制度」を活用し、学校での机上学習の枠を超えた専門学校カリキュラムの高度化、実践化手段として確立する事を目指しました。

ファッション流通全体をとらえた中で、ファッション企業との産学連携を背景に衣料品における企画・生産・販売・プロモーションに至るまでの一貫通貫・体験型カリキュラムを作成しました。

〔3〕 1次製品(生地・テキスタイル企画)のファッション MD カリキュラムの内容

見附織物工業協同組合のテキスタイル繊維企業数十社とコラボレーション(共同作業)機会を創出して、学生に企業現場の生産プロセスや高度な知識・技術に触れる機会を与えつつ、生地・テキスタイル製品のファッションマーチャンダイジング実習を目指す内容です。

マーケティングからテキスタイル企画、デザインまでを学生が行い、プレゼンテーションマップにより繊維企業へディレクションしました。1次製品(試織)化プロセスを企業が受け持ち、展示コーディネート・ディスプレイプランは学生が担当し、バイヤーへのアピールも含め、学生の実務的開発能力を高めることができました。



〔4〕 2次製品(生地・テキスタイル企画)のファッション MD カリキュラムの内容

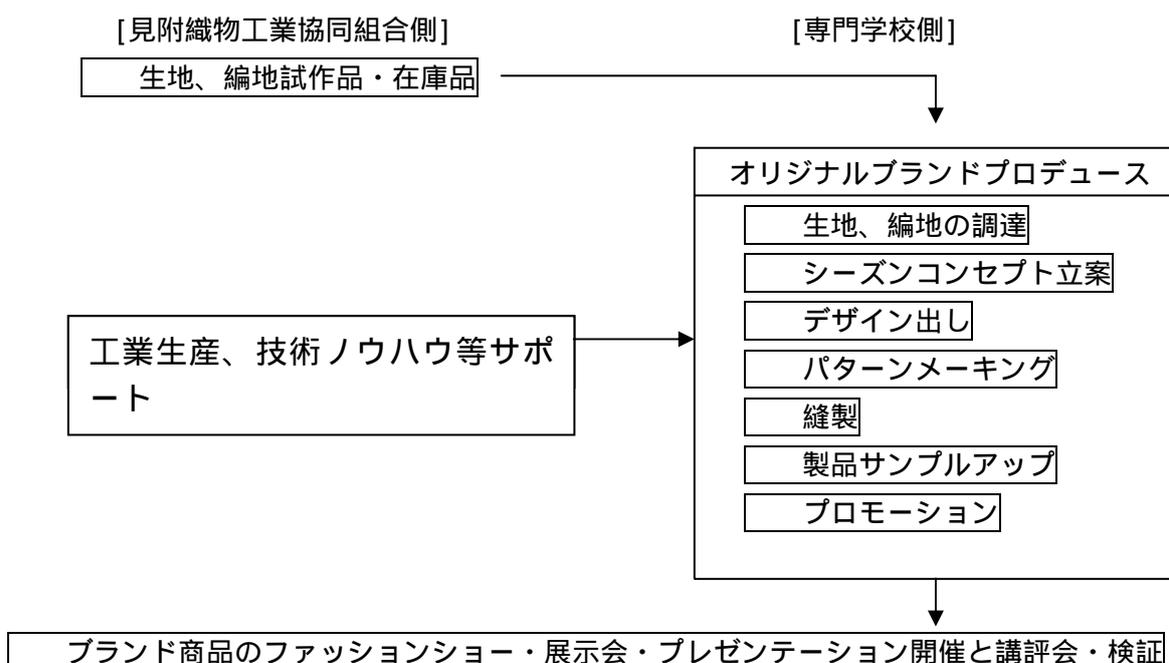
ファッション専門学校内の設備・備品・人的資源を活用し、新潟県内の繊維企業と産学連携のサポート体制のもとで実施する実践的カリキュラムに特色と先進性があります。

具体的には、「学生立ち上げのオリジナルブランドに括って、ファッション衣料品の商品企画とその製品化およびプロモーション」まで実際のアパレル業界業務フローに即したファッションマーチャンダイジングカリキュラムを展開する事によって、学生の就業スキルを開発する事を目的としています。卒業制作期間(12月～2月)の正課カリキュラムとして編成されている事も特色です。

繊維企業より提供された編地・生地等の素材を使用して、マーケティングから商品企画、デザイン、パターンメイキング、縫製、プロモーションまでの全プロセス(1

部アウトソーシングも想定)について取り組むビジネスワーク実体験プログラムです。

企画開発能力、就学モチベーション共に高い学生を選抜して、企画デザイン部門と製造部門やプロモーション部門などにグループ化し、会社組織編成・職務分担方式をとっています。チーム編成・役割分担で取り組んだ卒業制作課題について、学生個々人の成績評価方法としてデータをフィードバックする方法も開発し、改良を加えました。



〔5〕 CD-ROM 教材「3D Simulation for Apparel Design」開発の内容

ファッションマーチャライジング(商品化計画)において、単品である衣服のシルエットやディテール、その材料としてのテキスタイルやカラー決め、また、店頭での商品展開を想定した単品のコーディネート計画など数量把握とともにそのイメージづくりが重要です。ファッション流通各段階において、ブランドのコンセプトやイメージを訴求するデジタルプレゼンテーションツールが必要であり、それにとともなう多様なコンテンツ開発が今後求められると思います。

本 CD-ROM 教材は、テクノア(株)の 3D 着装シミュレーションソフトである「i-Designer、i-D Fit」を使用し、従来手仕事の領域であったビジュアルマップなどのコンテンツづくりをデジタル化する方法習得を目的としています。

CD-ROM に洋服やパターン、テキスタイル&カラー、コーディネートなどのビジュアルコンテンツが 2D、3D データとして保存されており、学生同士、学生と教師、学校と企業それぞれの間でノウハウの共有を図り、それを共通言語として新商品の開発や販売促進に活用することができ、本ツールを応用して実践的なファッションマーチャライジングやファッションデザインの授業を展開することができます。

< 成 果 >

- ・ ファッション系専門学校が県内ニット・テキスタイル企業と産学連携し、教育機関としての組織・設備・人的資源をベースとして学内に会社プロジェクトを立ち上げ、学生にファッションビジネスワークを実体験させるカリキュラム(1次製品ファッションマーチャンダイジング、2次製品ファッションマーチャンダイジング)、また学生就学動機付け方法論として、東京での繊維総合展示会「ジャパンクリエーション」および国際ファッションフェア参加や地元イベント会場での「ファッションショー・展示会」を学生みずからの手で実施させた事により、学生の「やる気」やチームワークで仕事に取り組む姿勢など、企業人としての心構えも高める事ができた。結果、学生就職先企業に対して、当カリキュラム受講者を即戦力としてアピールする事ができ、就職内定獲得の事例も得ることができた。産学連携授業を進めていく中で、学校側が主導権を握り、カリキュラムのプロセスをコーディネートして、地元テキスタイル、縫製企業等の現場教育実習も相互に組み込みながら、実践的カリキュラムにしていく方法なども具体的に生み出すことができました。
- ・ CD-ROM「3D Simulation for Apparel Design」をファッション教育機関初で完成できました。更にファッション業界ノウハウの蓄積などによりコンテンツを改良していく事で、産学連携ネットワーク強化・充実への仕掛け作りができました。
- ・ 本プロジェクト成果発表であるファッションショー・展示会を、企業21社協力のもと新潟市内、新潟フェイズで一般市民、繊維業界関係者、専門学校生など約600名の観客が見守る中で開催でき、広く産学連携による先進的カリキュラム開発の必要性と実践教育への取り組みをアピールし、多くの方々の理解を得られるとともに今後の高度職業人育成への可能性を切り開くことができました。
- ・ 特に、新潟県は繊維地場産業アクションプランを策定し、行政支援のもとに、五泉、見附、栃尾、十日町など各繊維産地が将来ビジョンを含めた各種課題に取り組んでいるところであり、人材育成は、その中の大きな柱で、今後繊維業界団体と専門学校がスクラムを組んで、今後も新しい教育方法としての「実戦型カリキュラム」を開発し、実施する事が可能です。

ファッション業界、特にアパレルメーカーの企画ノウハウ(社法、私法問わず)を専門学校カリキュラムに落とし込み、現状の専門学校教育高度化を図る地道な努力が求められます。そのような意味で本プロジェクトが開発制作したCD-ROM教材は今後の教育コンテンツ共有や蓄積についてのアイデアを提案できたと考えます。本成果発表会が産業界と専門学校ネットワークの掛け橋となり、高度職業人育成への一助となればと企画、実施しました。各界からのご意見・ご感想を頂きたいと思っています。